

えんちょう通信

No.117

令和6年1月26日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

みんなで楽しく子育て、「清水こぐまの会」



1月16日(火)、今年になって最初の「清水こぐまの会」(子育てサークル)の集まりがありました。前日の夜から降った雪で、幼稚園の周り是一片真っ白です。そういう日にもかかわらず、10名の子どもたちとその保護者のみなさまが、いつものように来てくれました。この「こぐまの会」を楽しみにしてくれているのだと嬉しくなりました。

この日も、子どもたちはみんなそれぞれ自分の好きなものを選んで遊びました。ブロックで家を作ったり、おもちゃの包丁で野菜を切ったり、大好きな新幹線ごっこをやったりと、それぞれ自由に遊んでいます。先生と一緒に牛乳パックでコマを作っている子もいます。

お母さんたちは、最初は後ろで子どもたちの遊ぶ様子を見ているのですが、いつの間にかお母さんたちの間にも会話が生まれてきます。

「お弁当には、何を入れるの？」

「うちの近くに、誰かお友達いないかな？ だれか知らない？」

こういうふうに、ちょっと心配なことや誰かに聞いてみたいなど思っていたことも、他のお母さんがそばにいれば、気軽にきいたり、相談したりできます。

誰だって一人で子育てをするのは大変なのだと思います。少しの間でも子どもたちを見てもらって、子どもたちが遊んでいるあいだに、ちょっと一息ついて、他のお母さんとお話したり、情報交換ができたりしたら、それはとても素敵なことなのではないでしょうか。

そして、幼稚園には幼稚園教諭や保育士の先生がいますから、子育ての相談に乗ってくれたり、関係機関と連絡をとってくれたり、あるいは新しい情報を提供してくれたりすることもあるでしょう。そして何よりも、先生方が、どんなふうに子どもにかかわるのか、どんな言葉かけをするのかも実際に見ることができるのです。

子どもたちは、どの子もみんな優しく親切です。そして人とかかわることが大好きです。ですから子どものそばにいれば、誰でもみんな幸せな気持ちになります。短い時間でもたくさんの親子が集まって子育てをしたら、それはとても楽しく、意味のある時間になるのではないのでしょうか。

そういう場をつくるのも、公立幼稚園の大事な役割だと思っています。